

能登から世界へ

さあ、はじめよう「里海研」



小木石と地震・震災に耐えた

「恋路トンネル」

■大地を学ぶ「小木石ガイドブック」

2020年、里海研は小木公民館や地域の皆さんに協力いただき、ガイドブック「能登の小木石く里海に育まれた歴史と文化」を出版しました。かつて能登町で大量に切り出され、県外にも出荷されていた石材である「小木石」を解説した書籍です（イカの駅つくモールで販売中）。本書では、小木石を含む凝灰岩の地層が、一帯の地盤を構成していること、かつて日本海と日本列島が生まれた時代にその地層が作られたこと、古くから石材として利用され、地域の景観や文化の一部となっていることを紹介しました。

出版後は皆様より好評をいただき、また学校の授業にも活用いただきました。小木小学校では里海研と協力して小木石をテーマに取り入れ、理科の「大地のつくり」の授業を行いました。身近な自然環境を題材することで、理科の知識だけでなく地域理解も深まればという思いで協力しました。



小木石を用いた「大地のつくり」の授業
(2020年・小木小学校提供)

今回の能登半島地震では、まさに「大地のつくり」が被害を左右しています。3月に開催したいしかわ海洋教育フォーラムでは、金沢大学臨海実験施設の現状について、敷地内の造成した部分は崩れたものの、固い小木石の地盤の上に建てられた研究棟はほぼ無傷だったことが報告されました。大地のつくりを知ることは防災にもつながるということが実感されます。

■小木石授業で育てる防災意識



法融寺の立派な石垣
(震災前・ガイドブック「能登の小木石」に掲載)

今回の震災を受けて、小木中学校が長年続けている「防災教育」が改めて注目されています。こちらも道德の「自然の力とどのように向き合うか」の授業に、里海研が協力したことがあります。三好和義氏の「火の島」を教材として、自然の力をどのように感じるか子どもたちが述べ合った後、太平洋の真ん中になぜ火山ができるのかを浦田研究員が解説し、小木石のサンプルを見せながら、自分たちが立っているこの場所でもかつて大規模な火山噴火があったことを伝えました。自然の力をただ恐れるのではなく、そこから何かを知ろうとする姿勢が、高い危機管理能力と防災意識を育てると思います。

■小木石遺産の運命

今回の地震では多くの文化財が存亡の危機にあり、レスキューが進められていると

聞いています。小木石に関しては、町内各地の建物の土台や腰壁に使われているものがかなり損壊しています。特に、江戸時代の1685年に小木の現在地に建ったという法融寺の立派な石垣が崩れてしまったのはとても残念なことです。

一方で、恋路の観音坂横にある通称「恋路隧道（恋路トンネル）」は、前後の斜面がやや崩れたものの、幸いなことに小木石積みみのトンネル自体には損傷はほとんどないようです。明治時代の1877年頃に開通したとされるこのトンネルは、日本でこれまで知られている石造の道路トンネルとしては最古の可能性があり、全国的に見ても貴重な文化財ですから、無事で本当に良かったと思います。地域の重要な産業遺産というだけでなく、震災に耐えた「奇跡のトンネル」として、末長く保存されることを願っています。



地震に耐えた恋路トンネル
(2024年3月16日撮影)

(能登里海教育研究所 浦田慎)



令和6年能登町 二十歳のつどい



令和6年「能登町二十歳のつどい」(旧成人式)を以下の日程で実施します。
※令和6年1月7日実施予定で延期となった式典です

- 日時** 令和6年8月11日⑥
午後1時30分～(受付 午後12時30分～)
- 会場** 能登町役場2階 大集会場
- 対象者** 平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれの
町立中学校卒業生及び在町者
※令和7年対象者(平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ)
は9月頃に出欠確認案内状を送付します
- その他** 対象者への出欠確認案内状は5月上旬に発送いたします
※6月に入っても届かない場合はお問合せください

能登町教育委員会 ☎ 62-8537



臨時特急バスが医大病院・県中病院に停車します

北陸鉄道グループが運行する奥能登特急バスは、現在臨時便で運行しています。4月22日より、輪島特急便が医科大病院、県中病院前に停車します。

これに合わせて、路線バスがのと里山空港まで乗り入れますので、乗り換えて輪島特急に乗車することができるようになりました。
詳しくは北陸鉄道テレホンサービスセンターまでご連絡ください。

日帰り通院が可能に!!

北陸鉄道テレホンサービスセンター

☎ 076-237-5115

営業時間 8時～16時 年中無休

運行状況は
ホームページで



家の片づけ、お手伝いします

○家の片づけ ○壊れたものや荷物の運び出し ○掃除 ○家具の移動など

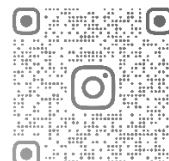
お気軽にご連絡ください

受付時間 9時～17時

連絡先 能登町災害ボランティアセンター
☎ 080-7843-2042 ☎ 070-2669-2942

設置場所 町社会福祉協議会
(能登町字松波 13-75-1)

※専門的技術を要することや危険を伴う作業など
ご要望に応えられない場合もあります
※ボランティアの参加人数や天候によっては、
すぐにご要望に応えられない場合もあります



NOTOSHAKYO

完全無料!!
お食事の用意も不要です

能登高生の学び ～学習会と卒業生と語る会～

2024年3月25日から27日の3日間、能登高校の学習会が行われました。2年生はまちなか鳳雛塾を会場として受講し、私たち能登高校魅力化プロジェクトスタッフも授業を担当しました。主に大学進学を志望している新受験生に個別指導を行い、数学や英語、現代文とそれぞれの得意や苦手に合わせて対策を行いました。生徒は慣れない入試対策問題にもチャレンジし、進路実現のために力をつけていきます。

そして最終日には能登高校魅力化プロジェクト主催の「卒業生と語る会」が行われました。受験を終えた卒業生の先輩に、高校生活を振り返ってのアドバイスや失敗談などを聞きました。能登高校のカリキュラムや生活リズムをよく理解している卒業生、生徒の気持ちに寄り添った的確な助言をしてくれました。在校生も、自分と似た境遇の先輩から聞く話はとても参考になったと話しており、たくさん刺激を受けたようです。



▲能登高校魅力化スタッフによる授業



▲卒業生と語る会の様子

総合的な探究の時間 ～伴走者研修～

能登高校が春休み中の4月初旬、能登高校の先生方向けの「総合的な探究の時間（総探）」伴走者研修が行われました。ワークショップ形式で行なわれたこの研修では講師（ファシリテーション）を魅力化コーディネーターの木村が務めました。

研修には能登高校魅力化スタッフや、輪島市内の10代の居場所「わじまティーンラボ」のスタッフも参加しました。内容は、今年度の「総探」で生徒の探究活動をいかにして支援・伴走するか？というものです。

能登高校では2019年度から総探で地域課題探究に取り組んでおり、中心となって担当してこられた先生方には蓄積されたノウハウがあります。さらに生徒の探究活動

を継続的に伴走し続けていく中で、先生方からは多くの発見とともに苦労や悩みの声がたくさん出てきました。

培ったノウハウを、新たに着任された先生を含む総探に関わる全ての方々と共有し、探究活動の伴走の在り方について考え直すこと。そして課題を解決して2024年度の総探にチーム能登高で取り組みましょう！というのが研修の趣旨です。

先生方から多く寄せられた悩みを出発点に、対話の場を3回繰り返して先生方と魅力化スタッフで話し合いました。対話を繰り返す中で「より良い伴走者」になるためのヒントが次々と生まれていました！新任からベテランまで、総探の経験や考えを語り合う姿は「探究の探究」そのものでした。能登高校の先生方の熱意って本当にすごい！と毎年思われます。総探は教育活動としての目標・目的はもちろんありますが、進め方に1つの正解があるわけではありません。伴走者である先生も生徒と楽しんで探究活動を進めていくことが大事です。今年度の総探がとても楽しみになる研修でした。



▲伴走者研修の様子



能登高校の新年度 ～終業式と入学式～

春が訪れ、新年度が始まりました。出会いと別れを経て、能登高校にも新しい風が吹きます。

2024年3月25日、令和5年度終業式・離任式が行われました。生徒は、離任する教員方に花束を贈呈し、感謝の言葉を伝えました。また能登高留学3期生も、この日が能登高校生活の最終日でした。在校生と留学生はお互いの活躍を称え、それぞれの進路へ送り出しました。

式の後には、能登高校で66日間に渡り昼食を提供してくださったNPOキャンパーの皆さまへ、感謝のメッセージを伝えました。長い間、能登高校を支えていただき本当にありがとうございます。

4月8日には能登高校入学式が行われました。新一年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから能登高校で学び、どんな風に成長していくのかとても楽しみです。私たちまちなか鳳雛塾も、みなさんの高校生活を全力でサポートします。



▲能登高留学3期生に花束を渡す能登高生



▲離任式の様子



▲NPOキャンパーの方々への花束贈呈



▲NPOキャンパーによる炊き出しの様子

地域みらい留学365 ～能登高留学生在がやってきました～

2021年度から始まった能登高留学。高校生活の2年次の1年間、地元の高校を離れて能登高校で学生生活を送ります。そんな能登高留学4期生が能登にやってきました。

入学式の後に行われた歓迎式で、3名の留学生在が一人ひとり能登での高校生活への期待と抱負を話しました。これから能登でどんな成長を遂げるのか楽しみです。

震災があっても能登への気持ちが変わらなかった4期生たち。能登町が3人の新しい故郷となるように町民の皆さまと交流してほしいので、是非ご協力をお願いいたします。楽しく思い出に残る1年間になるといいですね！



▲能登高留学4期生